

目次

口絵 馬場 弘融 i
ごあいさつ 馬場 弘融 i
監修に当たって 宮地 正人 ii
例言 iii

第一篇 第四回特別展 新選組 その後——自由民権運動に仮託した多摩の思い—— 1
はじめに——データから見える新選組の箱館降伏者—— 3

I 新選組 その後 7
第一章 明治の新政と多摩・日野 7
第一節 八王子千人同心と新選組 7
第二節 新政府軍の日野進攻 11
第三節 日野宿農兵隊の解体 12
第四節 もたらされた情報——土方歳三の最期 13
第五節 新政府の政略 14
第六節 多摩の政治環境 15
第七節 新政批判から自由民権へ 20
第八節 民権運動の転機と政府の弾圧 22
第二章 元隊士への弾圧と懐柔 28
第一節 新選組の処分 28
第二節 新島流罪となった相馬主殿 29
第三節 「勝者」の論理による裁き 30
第四節 「敗者」の論理と多摩の機運 32
第三章 元新選組隊士のその後 34
第一節 多摩出身の隊士 35
第二節 生え拔きの隊士 39

II 元新選組隊士のその後 49
第一章 日野の出身者たち 49
第二章 旧新徴士会と石坂周造 52
III 新選組とはなんだったのか 56
第一章 清河八郎・山岡鉄舟がいなかったら、新選組はありえなかった 56
第二章 新選組・新徴組の歴史的作用 60
第四回特別展「新選組 その後」イメージ音楽 作品解説 ——多摩人の土性骨の強さ—— 藤田 勉 64
第二回新選組書展 開催の記録 65
展示品目録 70

附 新選組・新徴組史料を現代文で読む 74
1 清河八郎の実父、斎藤治兵衛の思い 74
文久二年（一八六二年）臘月十二日 斎藤治兵衛書状 桜田良佐宛 74
2 土方歳三・井上源三郎・馬場兵助ら、浪士組へ登用 75
文久三年（一八六三年）二月五日 御上洛御供浪人組へ御差加えにつき御届下書 75
青柳村・石田村代兼日野本郷名主彦五郎から江川太郎左衛門御役所宛 75
3 新選組最後の隊長相馬主殿（主計）の新島流罪 75
明治五年（一八七二年） 流人・相馬主殿の嘆願書 当庁（新島）御役人衆中宛 75
4 桑名藩士・成合常久 76
（1）明治九年（一八七六年）十二月二十七日 成合常久書状 実妹河合千代宛 76
（2）明治年未詳 『成合家譜』 成合常久条抜粋 76
第二篇 特別寄稿 79
松田道之が新選組士？ 宮地 正人 81

第三篇 第四回特別展 新選組 その後 史料調査報告	87
第一章 新選組・新徴組関係史料集	89
第一節 市立函館図書館所蔵文書	89
1 年未詳 『戊辰役函館戦争人名書』 摘録	89
2 第二節 弘前市立弘前図書館所蔵文書	100
1 明治二年(一八六九年)五月二十一日 箱館称名寺降伏人名簿写	100
2 明治二年(一八六九年)六月 『耕春院降伏人止宿扱方御用留』 摘録	101
第三節 鶴岡市郷土資料館所蔵「相田家史料」	107
1 元治元年(一八六四年)八月 『新徴組掛り御役人石附姓名并新徴組明調帳』	107
2 元治元年(一八六四年)六月 『新徴組士御宛行金・御役金其外取調帳』	121
第四節 山口県文書館所蔵「毛利家文庫」	123
1 『銀台柏翁手記』 摘録	123
2 『見聞録抜抄』 四 摘録	123
3 『見聞録抜抄』 五 摘録	123
4 『年度別史料』 十三 摘録	124
5 『年度別史料』 十八 摘録	125
6 『年度別書翰集』 十八 摘録	125
7 『年度別書翰集』 三十 摘録	125
8 『年度別書翰集』 三十二 摘録	125
第四篇 企画展 銃砲から見た近代の夜明け	127
はじめに	129
第一章 戦国時代と鉄砲伝来	129
第一節 鉄砲伝来について	129
第二節 鉄砲伝来がもたらした変革	129
第二章 泰平の世と和式砲術	130
第一節 戦国時代の終焉	130
第二節 砲術の秘伝化	132
第三章 ヨーロッパにおける銃砲と鉄砲戦術の発展	132
第一節 フリントロックの発明	132
第二節 十八世紀〜十九世紀ヨーロッパの戦い	133
第四章 欧米列強の脅威と洋式砲術の導入	134
第一節 欧米列強の東アジア進出	134
第二節 高島秋帆の洋式砲術	135
第三節 雄藩の取組み	136
第五章 黒船来航	136
第一節 軍備の増強	136
第二節 開国論と攘夷論	137
第三節 輸入された武器	138
第六章 幕末の内乱	139
第一節 十九世紀半ばの世界的な技術革新	139
第二節 各藩の近代化	141
第三節 武器マーケットとしての日本	143
第四節 戊辰戦争と銃砲	144
第七章 新選組と銃砲	145
第一節 京都時代の装備と戦術	145
第二節 甲陽鎮撫隊〜東北戦争	146
第三節 箱館戦争	148
第八章 日野宿農兵鉄砲隊	148
第一節 日野に存在した近代化部隊	148
第二節 日野宿農兵鉄砲隊の装備	149
第三節 日野宿農兵鉄砲隊の活躍と終焉	149
第九章 近代国家の成立と国産銃の開発	149
第一節 輸入小銃と士族反乱	149

第二節 近代の夜明けと村田銃の開発 149
展示品目録 150

英文目次 156

第一篇 第四回特別展 新選組 その後